

ご覧いただいた方へ

なぜ私が

「家づくりの道」を選んだのか？



ハウアドバイザー

齋藤 光佑（さいとう こうすけ）

ご挨拶

こんにちは！ 「平屋王国」を担当しています。

この度は、私のプロフィールまでお越しいただきありがとうございます。

まずは「齋藤光佑」がどんな人物なのか、知っていただければと思います。

つたない文章ではありますが、これまでの「わたし」が記載されています。

最後までお付き合いいただければ嬉しいです。よろしくお願いします！

私は、1994年10月25日、新潟県阿賀野市（旧水原町）で、齋藤家の次男として生まれました。両親、兄と弟の5人家族です。幼い頃、一緒に暮らしていたミニチュアダックスの「ベル」は、私が小学校3年生の時に、天国へと旅立っていきました。

忙しい両親でしたが、それでも休日になると家族そろって公園へ遊びに出かけたり、夏休みには群馬サファリパークや海水浴など、私たち兄弟が行きたいと言った所へは、ほぼ連れて行ってくれる子煩悩な両親でした。

そんな両親のもとで私は、兄弟の間でもまれながら、活発で、負けず嫌いに育っていきます。

小学校に入学すると、私は兄に憧れて空手道場へ通いはじめました。最初は全く分からず、「空手風」でしたが。。（笑）



「家族みんなで公園に行ったとき」

阿賀野市内の大会から少しずつ実践デビューをしていきますが、何せ「空手風」なので全く勝てません。とても悔しく、毎日の稽古を、それまで以上に励むうち、徐々に大きな大会でも結果が残せるようになり、ついには全国大会まで勝ち進むまでに上達しました。もうその頃には、日々の稽古で強くなっていくことがとにかく楽しく、いつしか空手の虜になっていました。今の私の風貌に似合わない負けん気の強さ、活発さは、この頃に形成されたのだと思います！（笑）



「県大会 水空会 集合写真（中学2年）」

空手と合わせて夢中になっていたのが、地元下条のお祭り「菅原大祭」です。幼い頃の私が、どこからともなく太鼓の音が聞こえてくると、音に合わせて踊りはじめたという話は、今でも両親の語り草です（笑）

小学4年生の時から太鼓をはじめ、今では太鼓演舞の中心的役割の担い、小学生に教えつつお祭りを盛り上げています。祭ばやしの太鼓は、私が下条で一番だと自負しています！ 気になる方は、是非どんな祭りが聞いてみてくださいね！



「夏になると、祭りの血が騒ぎます！」

空手の稽古に明け暮れ、お祭りで騒いで、勉強には全くと言っていいほど手を付けていなかった私にも、いよいよ高校受験の時期が来ました。

志望校は空手部があって、実家から電車で通える新発田南高校に絞って受験をしました。とは言え、ロクに勉強をしてこなかった私に、「普通科」は高嶺の花。真っ直ぐに「工業科」の門をくぐりました。

しかし、この考えの浅い選択が

後の私の人生に大きく影響を与えることになろうとは

当時の私が知る由もありませんでした

はれて新発田南高校に進学した私は、迷わず空手部に入部したのですが、ここでも負けん気の強さから、過剰な練習で大きなケガをするというアクシデントに見舞われました。

1か月半ほど学校にも行けず、復帰後は、少しずつ身体を動かし回復を試みましたが、以前のように身体が使えず、断腸の思いで、小学生の頃から続けていた空手を諦ざるを得ませんでした。

「建築」と出会ったのは、ちょうどその頃です。夢中になって打ち込んでいた空手を失い、今思えば知らず知らずのうちに、空手に代わる、心から打ち込める「何か」を探していたのかも知れません。

私は工業科目（建築科・土木科・電子情報科・機械科）の中で、特に「建築の面白さと奥深さ」を知り、強い衝撃を受けました。何もなかった場所に、大小さまざまな建物を自由にデザインすることが出来るのです。こんなにワクワクすることが他にあるでしょうか！

迷いが確信に変わった瞬間

建築にのめり込みはじめた2011年3月11日、未曾有の大災害、東日本大震災が起きました。もちろん私の住む街でも非常に強い揺れを感じ、直感的に「これは、ただ事ではない」と思ったのを記憶しています。

当時の私は、高校1年生の終盤で、本当に建築の道へ進むかどうか、進級先を迷っていました。単なる興味だけで一生を左右するであろう進路を、こんな簡単に決めてよいものなのだろうか。。。

しかし、川をさかのぼる津波がやがて堤防を越え、たくさんの車や家々を押し流していく映像を見ているうちに、私の覚悟が決まりました。暗いトンネルの先に、一点の光が見えたような気持ちです。

「今まで私は何不自由なく暮らし、それが当たり前だと思っていたけれど、被災地では何千何万もの家族の幸せな暮らしが、ほんの一瞬にして失われてしまった」。

「家族の幸せな暮らしのために、家というのは、もの凄く大切なものだな。人の命と財産を守る家づくりを一生の仕事にしよう。そのためにも、今はしっかりと建築を学んでいこう」、そう心に決めたのです。

家族の命と財産を守るために

建築科に進んだ私は、当面の目標を「建築士」資格の取得に決めました。本当に建築は奥が深く、学べば学ぶほど新たな発見や気づきがあり、勉強嫌いな私を飽きさせることはありませんでした。

高校卒業後の進路は、迷わず新潟工科専門学校に進学を決めました。理由は簡単です。大学に行ったとしても「建築士」になるには時間が掛かりすぎるからです。新潟工科専門学校では建築系学科に入学し、デザインやインテリアも併せて学んだことは、現在の仕事にとっても役立っています。



「保有資格は私の名刺にも記してあります。」

目標としていた一通り資格を取得したのち、世間から半年以上遅れて就職活動を始めました。10月中旬とかなり出遅れています（汗）

合同就活セミナーは終盤に差し掛かっている時期で、先に就職が内定した友人を横目に、必死でネット検索をしたところで、通り一辺倒な事しか書いてありませんし、なかなか思うように進みません。焦る気持ちを抑え、あらためて自分の将来について考えてみることにしました。

私は人と話すことが好きです。話している相手が笑顔の時は、自然と私も嬉しくなります。「人を笑顔にする仕事」、「家づくりに関わる仕事」、「学んだことを活かせる仕事」・・・

「家」は普段の暮らしの中で、一番想いが詰まり笑顔になれる場所です。心が安らぎ、落ち着き、暖かく迎えてくれる、何より笑顔になれる場所。

家族が集まりその日のことを話したり、みんなでご飯を食べたり、時には友達も呼んで楽しくお酒を飲んだりと幸せな時間を築ける場所。

自分と向き合ったことで、私の本当の意味での就職活動が始動しました。

これから家づくりを仕事にする上で

より多くの人を笑顔にするためには、どうすれば良いのか？

この想いを叶えられる会社はないのか？ 新潟県内の企業を検索する中で、ひとときわ輝いて見えた、一つの紹介ページに目が留まりました。

それが「ありがとう工房 永井建設」でした。「ありがとう」という言葉をとても大切にしている会社です。

私はホームページを見た瞬間、この会社で仕事がしたい！と思いました。この会社ならば、きっと私の想いが叶う！これは言葉では説明できません。運命的な直感です。

考えるのが先か、手が先か、すでに電話番号を押している私がいきました。採用中なのかを確認するためです。

「残念だけど、今年の募集は終了していて、今は採用活動をしてないんだよね。」あっさりと社長から断りの言葉がありました。

「でも、まだ採用募集一覧に掲載されているので、何とか説明だけでも聞かせてください！」。一度決めたことを曲げない性格の私は一步も引きません。社長はそんな私に根負けをしたのか、困ったなあ。。。という雰囲気でしたが、しぶしぶ面談をしてもらえる機会を設けてもらいました。

社長との面談で「ありがとう工房 永井建設」の考え方を再認識しました。

「やはり間違いではなかった」。話しを聞いた私の直感は、確信に変わっていました。

「ぜひこの会社で、仕事をさせてください！！！」

「そ、そんな簡単には、、、」

社長は、私の目をじっと見つめたあと、深いため息をしながら目を閉じて腕を組みました。

次の瞬間。。。



入社1年目の初節句

「君には負けたよ。そこまでの強い意思なら、一緒に頑張ろう！」と右手を差し出してくれたのです。今思えば、強引としか言いようのない採用でした（笑）

「ありがとう」を創造し、すべての人に感動を提供し続ける

私はこの考えに深く共感しました。この考え方なら多くの人を笑顔に出来ると思いました。「私達を選んでくださってありがとう」という感謝、そしてお客さまからも感謝され笑顔になってもらえる。こんなに嬉しいことはありません。

家づくりは、皆さんにとって初めてのことばかりです。分からないことやイメージできないこともあります。分からないことやイメージできないものが多ければ多いほど不安に思うはずです。

私は、お客さまの不安が解消し、イメージしやすいように、先入観に捉われることなく、さまざまな角度から家づくりの道案内をしたいと考えています。

家づくりの道案内は私一人ではできません

「ありがとう工房 永井建設」は、関係する人同士の距離が近い会社です。お客さまとの距離、現場大工さんとの距離、そしてお客さまと大工さんの距離がとても近いと思います。



この距離感、お互いを思いやり感謝することで成り立っていると同時に、家づくりを進めていく中で、とても安心できるポイントでもあります。

お客さまが、言いたいことが言える、思ったことをすぐに相談できる信頼関係が、家づくりを成功へ導く大きな要因であることは間違いありません。

最近、よくお聞きする言葉があります。それは、「打ち合わせ中に、子どもと遊んでくれているので、安心して納得のいく家づくりができました！」です。私からしたら、お子さまに遊んでもらっている感覚ですが（笑）

些細な感謝の言葉でしたが、私にとっては大変嬉しいお言葉で、とても感動しました。

最後に、、、

私は家づくりの道案内をしている中で大切にしていることがあります。

**「お客さまの暮らしを今よりもっと良くし、今よりもっと幸せにすること」
小さな感謝・感動を積み重ね、大きな笑顔につなげていきたいと考えています。**

この想いをもって、一組一組誠心誠意お手伝いをさせていただきます！

ご心配なこと、ご不安なこと、気になっておられることがあれば、
私 齋藤（さいとう）までどうぞご遠慮なくご連絡ください。
本当に「**安心できるいい家を無理のない価格で建てたい**」と真剣にお考えの方
には、私の持っている知識・経験・技術を駆使して全力でお手伝いします。

お読みいただいた皆さまにお会いできる機会を楽しみにしております。
最後までお読みいただき、本当にありがとうございました。

〒950-1214

新潟県新潟市南区上下諏訪木 829-9

株式会社 永井建設（平屋王国）

ハウスアドバイザー

担当：齋藤 光佑（さいとう こうすけ）

TEL：025-373-2334

FAX：025-373-6611

携帯：090-1423-5833



まずは、私たちを知ってください。

あなたの知らないこと、あなたのお役に立てることがたくさんあります。

【平屋王国】で検索してみてください。

あなたを守ります。どんなことでもご相談ください。

お役に立てれば、うれしいです。

saito@nagaikensetu.jp